

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100574		
法人名	社会福祉法人 彩生会		
事業所名	グループホームももほ		
所在地	沖縄県那覇市安里51番地		
自己評価作成日	令和2年1月29日	評価結果市町村受理日	令和2年 4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhvu_detail_022_unei=true&amp;JizyosvoCd=4790100574-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhvu_detail_022_unei=true&amp;JizyosvoCd=4790100574-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームももほでは、利用者様の「第二の家」を目指して、過ごしやすい環境と認知症の症状に合わせた環境を常に意識しながら活動しております。外には畑を利用者さんと一緒に作って、季節に合わせた野菜を植えたり、様々な手工芸を準備しております。外出支援も定期的に行っております。利用者さんの個別での支援に向けて12月から居室担当制を取り入れ、居室担当者には担当利用者の誕生日の企画を行ってもらったり、本人の困りごとから、やりたい事なども聞き取りを行い、個別支援の内容をより充実させる様に活動しております。さらに生活に必要な内容に沿った各種委員会を導入し、職員による質の高いケアを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元地域に根ざした複合型福祉施設として、昨年4月に開設した本事業所は、静かな住宅街に在り、利用者の思いや意向を尊重し、居心地のいい「第二の家」を目指して充実した個別支援を実践している。事業所内は、懐かしいゼンマイ式時計や絵画、手工芸品などが飾られ、落ち着いたある家庭的な雰囲気、利用者が思い思いに過ごしている。利用者の「テレビに映った首里の観音堂に行きたい」との要望に添い、ドライブに出かけたり、プロのドラマーだった利用者には、ドラムセットを居室に持ち込んでもらい、盛大な演奏会でスタッフとともに演奏してイベントを盛り上げる等の支援をしている。洋裁の得意な利用者にはミシンで各部屋の暖簾を縫ってもらう等の能力を活かした支援、外泊時の家族の介助の負担が軽減できるような取り組みも行っている。「ももほ新聞」を活用して運営推進会議で活動状況を報告し、地域や家族、他事業所との交流を図っている。職員の誕生日には、誕生日休暇や誕生日給付(1万円)等の配慮があり、職員の意欲向上に繋いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の常に目の行く場所に理念を設置して、日頃から理念への意識付けを行い、ケアリーダーには、ケアにおいても理念に沿った内容なのかをまず第一優先に考えながら取り組みを実施しています。しかし、まだまだ理念に対する職員の周知は完全とは言えないのが実情です。	理念は、昨年4月の開所時に管理者と職員で目指したいグループホーム、実践していきたい介護について検討し、作成している。「あなたらしさ」を大切に、「第二の家」を目指し、「『共感』し合える関係」づくりを掲げ、家事をしたい利用者には洗い物や縫い物ができる環境を提供する等の支援に努めている。理念の重要性を職員で再確認し、見直しを行う予定となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フラダンスボランティア、旗揚げ来苑、那覇市学童の児童との触れ合い交流会。不定期な物品の買い出しや、外出支援などを実施して地域との交流支援を行っている。	運営推進会議の委員として安里自治会の役員が2名参加し、10月には青年団の旗頭演舞や子ども達の空手演舞が施設前広場で披露されている。管理者は地域主催の敬老会に参加し、ふれあいイベントに協力して児童デイサービスの子どもの交流を図る等、地域との交流を深めている。実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には参加されている自治会の方々に対して認知症の症状や対応についての支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所が発行している広報誌を使って2か月分の活動について報告を行い、そこで出た意見についても次回の会議で経過報告を実施している。	運営推進会議は、4月の開所から現在までに5回実施され、行政職員は毎回出席し、利用者や家族、自治会役員、知見者として近隣グループホームの管理者が参加している。会議では活動状況や事故・ヒヤリハットの報告等が行われ、調理イベントや誤薬等について意見交換が行われている。議事録は公表している。利用者や家族については、各ユニットからの参加が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には那覇市チャーがんじゅう課の職員へ参加を依頼し、毎回参加をいただいている。会議では施設の実情やケアサービスについての取り組みを発信している。	行政と地域包括支援センターの職員が運営推進会議に毎回参加する中で、レク体操のボランティアを紹介してもらい、歌やレク体操等の活動が行われている。行政からは、研修や集団指導等の案内がある。市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。他のグループホームや小規模多機能型事業所に、見学や畑作りの指導等を依頼し、交流している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体としての身体拘束廃止検討委員会の活動とは別に、事業所として12月から身体拘束廃止検討委員会を立ち上げており、委員会ではセンサーを使用している利用者に対してのモニタリングを毎月実施してそれらの継続性や廃止に向けた取り組みを報告してもらっている。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、「身体拘束廃止検討委員会」を定期的に開催している。事業所は複合型施設の1階に在り、玄関の自動ドアから「ひとり歩き」を行う利用者には、受付の事務職員に情報提供の協力を得て、散歩を見守る等安全面に配慮している。職員は身体拘束をしないケアの理解と実践のための研修を行い、記録等も整備している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体での勉強会・研修にて虐待防止について学ぶ機会を持ち、外部での研修などについても職員へ報告周知を行い虐待防止に努めている。	管理者は、「高齢者虐待防止マニュアル」を整備し、職員研修を行っている。職員は、外部研修の「認知症の人の権利擁護について」や法人内研修「高齢者虐待について」等を受講し、虐待防止に努めている。管理者は、職員満足度調査を行い、職員の疲労やストレスがケアに影響していないかを把握し、シフト改善等に反映している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的MTGの際に、権利擁護の制度や必要性についての勉強会を行っている。職員にも適宜相談があった場合には権利擁護についての回答を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容説明や改定については、前もって利用者、家族へ報告説明を行い、さらに文章にてそれらの内容についての報告を行い、必要なものに関しては同意書も発行し、説明し同意、署名捺印をもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を表玄関に設置して、家族からの苦情箱を設置している。日頃から家族とのコミュニケーションを図り、家族からの要望に関しては連絡ノートを使って発信し、早期に改善が必要な管理者を中心に早期改善に向けて取り組みを実施している。	利用者からは、日々のケアの中で「体操がしたい」、「裁縫がしたい」、「手紙を書きたい」等の要望を聞き、対応している。家族の意見等の把握は、面会時や連絡ノートを通して行っている。毎週外泊している利用者の家族から、「大きくて重い車いすの扱いに苦慮している」との相談を受け、職員は利用者の自宅訪問を行い、介助の負担が軽減できるような車いすのレンタルや環境づくりを一緒に手がけ、安心して無理のない外出・外泊支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度調査を実施して、職員からの意見や提案を聴取している。管理者は常日頃から職員とのコミュニケーションを図りながら、意見や提案を聞き取りしている。	管理者は、職員満足度調査や個別面談を行い、職員意見を取り入れている。夜間の緊急時に対応できるように、2ユニットで働く職員のシフトを合同で組み直す方法に変更している。居室担当制を導入し、グループホーム独自の5つの委員会(事故対策・身体拘束廃止、排泄・感染予防、物品管理、レク・行事、業務改善)も設置して運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、職員と個別面談を実施して、その際には認知症の基礎知識のペーパーテストと個別の性格判断シートを活用し、それらを行った後に本人と来年度に向けた取り組みや、本人自体のプライベートの状況把握を行い、給与水準や労働時間などへの意見を聞いている。	管理者は、認知症の基礎知識のペーパーテストや性格判断シートを活用して職員の資質向上を図り、職員とのコミュニケーションも図っている。有給休暇として職員の誕生日には、誕生日休暇と誕生日給付(1万円)があり、職員への配慮がされている。インフルエンザの予防接種や資格取得のための受講料、受験費用等の助成も行っている。職員は、年1回(夜勤者2回)の健康診断を実施している。新人職員は、管理者がOJT方式で3か月間の研修を実施している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への認知症についてのオリエンテーションの実施。3か月間の試用期間中の評価の実施。施設全体会議の際は外部や内部による法人内研修の実施。資格取得に向けた支援を使って資格取得を実施している。管理者山口は7月に認知症ケア管理指導士の資格を取得		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には那覇市のグループホーム事業所に参加をお願いしており交流を図っている。同じ地域密着型サービス事業所で小規模多機能事業所とも畑の取り組みについての支援をお願いして、定期的な職員間の交流が行えている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期アセスメント時には、本人の要望についてゆっくりと聞き取りを行っている。しかし初期アセスメントでは本人は遠慮してしまう傾向があるので、これまで関わっていた関係事業所にも聞き取りを行いながら、本人の安心を確保するための関係、環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には申し込みの際にはなるべく入居を申し込むに至った経緯について時間をかけて聞き取りを行っている。申し込みに至った経緯の中に、これまでの生活で困ったことや不安だったことが隠されており、それらを引き出してから、今後どのようにしていきたいのか？本人との関係性をどのようにしていきたいのか？要望について聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	車椅子利用の利用者の家族から「外泊もたまにやりたい。」との要望が聞かれた際には、本人の介助方法についてや、外泊時に家族がどのような事で困ったか？等の聞き取りを行い、実際に自宅訪問し本人の外泊状況を聞き取りして、もっと楽に自宅での外泊や外出が継続できるように福祉用具(自費レンタル)などの調整を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味付けや接遇についてなどの指摘があった際には真摯に受け止め、本人と話し合いを行いながら対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新規入居の際には家族から「本人が不穏になるので、面会はあまり来ない方がいいですか？」と言われることがあり、その際には「面会は出来る限り来てください。本人がここに居ても家族が会いに来てくれると思える環境作りと家族との繋がりを意識出来る様にしたいので。」と伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等の面会の受け入れや本人が行きたい場所などを聞き取りして、実際に外向いたりするイベントの実施を行った。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者からはドライブ時などに趣味や仕事等の話を聞き、家族からは、これまでの地域との関係について情報を得ている。職員は、利用者の生活歴を把握し、出身地の紹介番組を録画してテレビを観る機会を作る等支援している。利用者がこれまで通っていた美容室を継続利用できるよう家族も協力している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的なイベントを開催し、イベント時には全利用者へ声掛けを行い参加を促している。しかし参加拒否される方も居り、その際には時間を空けて再度関わってみたりと、職員を入れ替えて対応したりしながら孤立しないような取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院から家族より退去の要望が聞かれた利用者については、退院後に施設満床であった為に別の施設の案内、引継ぎや同施設の有料老人ホームへの引継ぎを行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プロのドラマーだった方から、ドラムを演奏できる様にしてほしい。との要望があり、実際に自宅のドラムを持ち込んでもらい対応した。自宅が畳だった方に対しても実際に畳を持ち込んでもらい対応した。お茶とうを毎日行っていた利用者にはホームでも毎日お茶とうを行ってもらっている。	一人ひとりの思いや暮らし方についての希望は、利用者や家族から聞いている。「畳の部屋で生活したい」、「亡夫に毎朝お茶を供えたい」等の利用者の思いに応え、支援している。ドラムの演奏を生きがいとしていた元プロドラマーの利用者の希望にも対応し、自宅から居室にドラムセットを持ち込んで、演奏のできる環境を整えている。法人の就職説明会のイベントで、盛大な演奏会を開き、思いきりドラムをたたきたいという利用者の思いを実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時にはこれまでの生活歴を聞いて、これまでの状況について把握しており、その後の更新時なども再度生活歴について確認し把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間での本人の生活状況について記録を行い把握を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは、面会時や介護計画作成前に聞き取りを行っている。職員については居室担当を付けているので、その職員を中心に介護計画作成前には居室担当報告書といったモニタリング用紙を使って本人の日々の生活状況や今後検討したい内容について報告を行ってもらい介護計画への反映を行っている。	サービス担当者会議は、利用者や家族、担当職員、看護師、必要に応じて管理栄養士や薬剤師、言語聴覚士等が参加し、現状に即した介護計画の作成に努めている。長期目標は2年(認定有効期間)、短期目標は半年とし、モニタリングは6か月毎の更新時や状態変化時に実施している。利用者の意向や状態を反映し、「御茶トウ」や排泄支援等を個別支援計画に位置づけている。退院後の食事支援に関する随時の見直しも確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例ミーティングでは居室担当者に毎月の本人の気づきや、ケアの実践についての報告を行ってもらい、職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症デイケアの活用、爪のケアの専門事業所の紹介、家族より外泊時の本人の介助方法についてや、自宅で使いやすい福祉用具の相談があり、自宅へ実際に出向き介助方法の伝達や福祉用具事業所を呼んで、本人の状態にあった福祉用具の選定を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として本人の心身の力を発揮してもらっている取り組みとして、那覇市チャージョウ課の65歳以上のボランティアの受け入れを行い、現在2名のボランティアの方がレクリエーション活動の支援と、傾聴活動、畑活動の補助として来てくれている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の実態調査時、アセスメント時にはかかりつけ医について聞き取りを行い、今後も継続の希望などを聞き取り対応している。入居後には家族から疾患に対する専門的な病院の紹介をお願いされたり、病院受診対応が困難な場合には訪問診療の紹介を行って対応している。施設でも1時間2,000円で病院受診送迎対応も行っている。	利用者5名が馴染みのかかりつけ医を継続受診し、4名の方が入居後に協力医に変更している。定期受診、他科受診ともに家族対応とし、必要に応じて「情報提供書」を託し、医師との情報交換を行っている。受診結果は家族より口答で受け、申し送りやミーティング等で共有している。訪問診療の利用者4名、訪問歯科の利用者3名は、職員と法人看護師が対応している。健康診断は家族対応で実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合型の施設の看護師が居る為、適宜看護師へ状態の変化があった場合には相談を行い、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院相談員へ本人の基本情報を送り、病院相談員へ連絡し入院前の状態について申し送りを行い、退院前には事前連絡のお願いと、必要時には退院前カンファレンスへ参加を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在開所して終末期の方の対応はなかったが、令和1年12月に誤嚥性肺炎で入院になった利用者が病院より胃ろう造設の話が家族にあったが、家族より胃ろうは作らないとの報告があり、病院よりターミナル期への移行となる説明があり、家族へは面談を行い重要性の説明、看取りの指針の準備を行った。チームには看取りに関する資料を配布し、事前の状況説明を行った。しかし令和2年1月2日に本人病院にて永眠し、支援には至らなかった。	重度化や終末期に向けた事業所の方針については、契約時に利用者や家族等に説明している。利用者や家族等の意向把握のため、家族から聞き取りを行い、本人や家族の意思を尊重した看取りが実施できるよう看取りの体制づくりに努めている。「看取り介護に関する指針」や「看取り介護についての同意書」等も整備している。管理者は、過去の看取りの実践等を活かし、研修をはじめとする職員教育に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体MTGの際には緊急時の対応について堅守を行い、GH独自での緊急時のマニュアルも作成している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、そちらに職員の災害発生時の動き方等を記載し、対応している。地域との協力については、適宜避難訓練等の際には声掛けを行っているが、現在地域からの訓練参加者はいない。	屋間想定避難訓練を1月に実施している。「地域密着型複合施設百穂苑災害の基本と対策」に則り、避難訓練の実施計画が作成され、実施報告書等も整備されている。地域住民へは、自治会を通して協力依頼を行っているが、参加は得られず、課題となっている。2回目の訓練として、3月に夜間想定避難訓練を予定している。備蓄は食料や水等を3日分程度、備品として自家発電や懐中電灯、寝具、オムツ等を備えている。台風対策については、「事前確認事項」を整備し、早めの出勤を義務づけるなど職員に周知している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念をいくつかの場所に掲示し、利用者の尊重を意識してもらっている。浴室は個室浴で、出来るだけ同性介助にて対応している。居室も鍵付きの扉を使用して利用者のプライバシー保護を行っている。	職員は利用者の支援に際して、その場限りの嘘やごまかし等の取り繕いをしないよう心がけている。不用意に馴れ合い的な言動が見られた場合は、管理者が職員を個別に注意し、利用者尊重の意識と態度の再確認を促している。利用目的と同意書が整備され、グループホームだよりや法人のホームページ等への写真の掲載については、同意の有無に従い、適切に対応しているが、個人情報保護方針が確認できず、方針と利用目的の公表がなされていなかった。	個人情報保護方針と利用目的の公表が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望については、日々のケアの際に職員にて聞き取りを行い、何か本人からの希望が出た場合は適宜職員へ申し送りを行っている。居室担当者にも誕生日やプラン変更時には本人へいつもより積極的に関わってもらい、希望の表出に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを尊重しての支援を行っているが、利用者には体操をして欲しいと言われる方や、体操をやると音がうるさいからやめてほしいという意見があったりする。意見が分かれてしまい、その際には拝領はしながらも健康増進を考えて体操を行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自身で選ぶことが出来る方には一緒に選んでもらっている。選ぶことが困難な方については、なるべくストックされている洋服が満遍なく着まわせるようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の片づけを行っている。準備については、お米を炊いたり、それらをよそったりしてもらっている。食事も出来るだけ利用者と一緒に食べながら味の確認を行っている。定期的な手作りのおやつ会の開催や、母の日には外食イベント、畑では野菜作りを行って、それらを収穫したのちに調理してみんなで頂いている。	朝食は職員が準備し、昼食と夕食は法人厨房からの配食で、適温提供がなされている。ご飯は、毎回利用者が洗米して炊き、よそっている。味見や下膳、お茶碗洗いに参加する利用者もいる。日勤の職員が利用者と一緒に食事を摂り、法人の給食委員会が実施した嗜好調査の結果を献立に反映している。利用者の希望に応じて月に1回、中味汁やポロポロジュシー、煮付け等の沖縄料理を提供し、行事に合わせて回転寿司やカレーパーティ、お祝い御膳(お品書き付き)、流しそうめん等の多彩な食事も提供している。デザートやランチョンマットも工夫され、畑で収穫したゴーヤーをおやつ会で調理して天ぷらを食する機会も設けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は常に補充できるように支援している。食事量についてはムラが有る方なども居られるが、出来るだけ食べてもらえるように声掛けを適宜行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケアが行えない方については職員が補助、または介助を行い対応している。必要時訪問歯科診療を案内しより清潔保持の努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄委員会を中心にその方の個別の排泄ケアについての取り組みを実施している。排泄パターンについては24時間式の排泄チェック表を用いて把握している。	排泄パターンは、24時間排泄チェック表と利用者の発するサインで把握している。座って排泄したい利用者の思いを踏まえ、できるだけトイレでの排泄を支援している。日中は自力や職員の誘導等により全員がトイレで排泄し、夜間はリハビリパンツ等の利用者もいるが、6名はトイレでの排泄を行っている。尿意を示さない方は、立ち上がった時にトイレへ案内し、衣服を下げる動作を支援するなど工夫している。排泄時のプライバシー保護に留意し、見守りを希望する方にも配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じを良くするために、お汁物には食物繊維を豊富に含んだパウダーを使用したり、毎朝起床時、朝食後は特にトイレに座ってもらい排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ個々に合わせて入浴を実施しているが、本人から訴えがない場合には、こちらで入浴を促しながら対応している。入浴拒否をされる利用者に対しては、職員と一緒に利用者とお風呂に入ることで拒否が少しずつ減っていった事例がある。	入浴は週2~3回とし、利用者の希望する時間帯で支援している。同性介助を基本とし、男性職員のためのシフトの日は、異性介助でも拒否のない方を優先し、他の利用者は同性介助が可能な翌日にずらす等配慮している。家族から、以前の入浴の習慣やスタイルを聞き取って職員と一緒に入浴したり、シャンプーを3日連続行うなどして、入浴拒否が改善した事例が複数ある。音楽や温泉気分が味わえる入浴剤等でお風呂が楽しめるよう工夫している。整容室に鏡台や籐椅子、扇風機等が整備されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで休息してもらうようにしている。訴えが無い方についてはこちらから声掛けを行い休息してもらったりしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については利用者台帳にお薬情報をストックしており、内容について分からない時はそれらを適宜確認している。用量については、一覧表を作成しそれらを参考にしながら支援している。	台帳に、「お薬の写真」、「薬のしおり」等がファイルされ、利用者一人ひとりの服薬状況がいつでも確認できるように工夫している。服薬マニュアルや服薬一覧表が整備され、居室に服薬カレンダーを掛けている利用者も2名いる。管理責任者である法人看護師が保管や配薬を行い、職員が与薬介助と確認、記録を担当し、毎食後看護師が確認するという流れで支援しているが、飲み忘れや落薬等の誤薬が数回あり、再発防止に努めている。	誤薬が発生した場合の再発防止の検討会議の実施、議事録の職員への周知等も含めた服薬支援マニュアルの見直しが望まれる。併せて、服薬事故発生時の周知方法、事故内容の共有化についても再確認を期待したい。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大正琴を趣味としている方には大正琴をやっていた方で集まってもらい大正琴クラブを実施している。その他にも裁縫が得意な方や、俳句等、その方の生活歴を知りながら再チャレンジ出来る様に支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望での外出とまではいっていないが、月に数回は買い物支援や、ドライブ、外出行事などを取り入れながら本人が希望する場所に出かけている。施設内の畑へ出向いてもらい、実際に畑の水やりやそれらを見学してもらい外気浴を行ってもらっている。	利用者は日課として、敷地内を周遊して庭園や花壇を眺め、畑の草むしりをしたり、吹き抜けの中庭で過ごしたり、近所を散歩したりしている。近くのスーパーへの買い物や母の日の外食等も支援している。海が見たい、首里の観音堂へ行きたい等の希望に応え、リフト車で漁港や首里にドライブをし、猫好きな利用者へは、美術館の企画展見学を支援している。重度の方や外出を好まない方は、家族と行きつけの喫茶店やアイスクリームの店に出かけ、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持を基本は行ってもらっているが、お金が無くなったり、本人がしまった場所を忘れてしまったりするという事が発生した事例がある。都度家族にはお金を所持する事は制限はないが、そういった事情が発生する事の事前説明を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいと言われた利用者には一緒に写真付きのはがきを書いてもらったり、電話したいという訴えにも家族に協力依頼し、やり取りをしてもらっている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の時計や絵など、懐かしの物を置いて居心地の良い空間づくりを行っている。利用者と一緒に作った手工芸品等も展示している。	建物全体が広くて新しく、施設設備が充実しており、廊下や居間等の共用スペースの設えが工夫され、落ち着いたある洗練された空間づくりをしている。寄贈された年代物の時計や絵画、古いポスター等、郷愁を感じさせる調度品や工芸品等が飾られ、テーブル席以外にソファやイスも多く配置されている。文書類の掲示物は少なめにし、貼り絵や折り紙等の利用者の作品や職員手作りのカレンダー、クリスマス忘年会の写真等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の4か所の死角となりそうなスペースにソファを設置して、利用者が一人になりたいときにくつろいでもらったり、職員と二人きりで話が出る様に考えて配置している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の際には必ず自宅から、本人が使い慣れた家具などを持ってきてくださいと声をかけており、居室には各々の使い慣れた家具や写真などが飾られている。	居室には、洗面台やベッド、エアコン、温度計等が設置され、利用者は時計やテレビ、タンス、大正琴等の楽器を持ち込み、写真やタペストリー等を飾っている。入口には、利用者がミシンで縫った暖簾が掛けられ、表札代わりに好きな歌手のポスターを貼っている利用者もいる。各部屋の窓からは庭園や花壇が眺められるようになっていいる。排尿回数の多い方をトイレに近い居室にしたり、利用者の動線やADLに合わせてベッドや家具を配置替えし、自力歩行に繋げている事例もある。職員は、「馴染みのものが一番の福祉用具になる」という考え方で、利用者の居心地の良さを検討し、その人らしい部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険性が高いが、自身で歩きたいという意識が強い利用者に対して、居室内の配置を一緒に考えて、傾びそになっても支えとなるものが近くにある様な居室環境にしたりして工夫している。		